

劉虞は、公孫瓚の上司である。劉虞は、公孫瓚を罰そうと意気込んだが、下克上された。大人しい皇族ではない。信念ある頑固者です。胡族への優しさで、温和な人と判断するのは、勘違い。袁紹が皇位を、くどくど勧められなかった理由が分かる。そんなことしたら、袁紹は斬られた。

劉虞 字伯安、東海郟人也。

祖父嘉，光祿勳。

謝承『後漢書』がいう。劉虞の父は、劉舒。丹陽太守。五経に通じる。光武帝の子、東海恭王の後裔。そついうわけで、東海恭王の列伝を引きます。2節から、劉虞に帰ってきます。お急ぎの方は、そちらへ。

## ■ 1節 劉虞の老家、東海王

東海恭王彊。建武二年，立母郭氏為皇后，彊為皇太子。

26年、母を皇后に。劉彊は皇太子に。劉虞の祖先は、明帝の兄である！

十七年而郭后廢，彊常戚戚不自安，數因左右及諸王陳其懇誠，願備蕃國。  
戚戚は、憂えるさま。蕃國は、藩国におなじ。

光武不忍，遲回者數歲，乃許焉。十九年，封為東海王，二十八年，就國。

光武帝は、ぐずぐず数年も決心がつかず。あやまちによる国行きでないから、大国を与えた。

帝以彊廢不以過，去就有禮，故優以大封，兼食魯郡，合二十九縣。

賜虎賁旄頭，宮殿設鐘虡縣，擬於乘輿。彊臨之國，數上書讓還東海，

又因皇太子固辭。帝不許，深嘉歎之，以彊章宣示公卿。初，魯恭王好宮室，

魯の恭王とは、前漢の景帝の子、劉余。

起靈光殿，甚壯麗，是時猶存，故詔彊都魯。

中元元年入朝，從封岱山，因留京師。明年春，帝崩。冬，歸國。

中元元年（56年）2月、光武帝は泰山を封じた。

永平元年，彊病，顯宗遣中常侍鉤盾令將太醫乘驛視疾，詔沛王輔、

濟南王康、淮陽王延詣魯。及薨，臨命上疏謝曰…（略）

劉彊の死は、58年。光武帝の死の2年後。2代皇帝にしなくて良かったよな。

天子覽書悲慟，從太后出幸津門亭發哀。使司空持節護喪事，大鴻臚副，宗正、將作大匠視喪事，贈以殊禮，升龍、旄頭、鸞輅、龍旂、虎賁百人。

異例なほど、王朝をあげて、劉彊の葬儀をしましたよ、と。

詔楚王英、趙王栩、北海王興、館陶公主、比陽公主及京師親戚**四姓夫人**、

小侯皆會葬。帝追惟彊深執謙儉，不欲厚葬，以違其意，於是特詔中常侍杜岑及

東海傅相曰…「王恭謙好禮，以德自終，遣送之物，務從約省，衣足斂形，茅車瓦器，

物減於制，以彰王卓爾獨行之志。將作大匠留起陵廟。」

故人は、つましい人でした。あまり派手に葬るのは、故人の意思に反します。

劉彊は、母が皇后をはずされたので、ひたすら地味に生きた人でした。処世術だったかも知れないが。

彊立十八年，年三十四。子靖王**政**嗣。政淫欲薄行。後中山簡王薨，

政詣中山會葬，私取簡王姬徐妃，又盜迎掖庭出女。豫州刺史、魯相奏請誅政，

有詔削薛縣。

劉彊の子、2代東海王の劉政は、ほかの王や皇帝から女を奪った。誅殺が訴えられたが、領土削減ですんだ。

立四十四年薨，子頃王**肅**嗣。永元十六年，封肅弟二十一人，皆為列侯。肅性謙儉，

循恭王法度。永初中，以西羌未平，上錢二十萬。元初中，複上縑萬匹，以助國費，

鄧太后下詔褒納焉。

3代東海王の劉肅は、初代東海王のように、つつしんだ。鄧太后に、ほめられた。

104年、劉肅の弟が21人も列侯に封じられた。劉虞の祖先は、このあたりから分かれるのかな。

立二十三年薨，子孝王**臻**嗣。永建二年，封臻二弟敏、儉為鄉侯。127年です。

臻及弟蒸鄉侯儉並有篤行，母卒，皆**吐血**毀眦。至服練紅，兄弟追念初喪父，

幼小，哀禮有闕。因複重行喪制。

父が死んだとき、まだ兄弟は幼く、悲しみが足りなかった。だから悲しみを、やり直した。

臻性敦厚 有恩，常分租秩賑 給諸父昆弟。國相籍褒 具以狀聞，順帝美之，制詔大將軍、三公、大鴻臚曰…（略）孝行を、ほめているのだ。

立三十一年薨，子懿王祗嗣。

初平四年，遣子琬 至長安奉章，獻帝封琬 汝陽侯，拜為平原相。

祗立四十四年薨，子羨嗣。二十年，魏受禪，以為崇德侯。

曹丕の受禪まで、東海王の家はあった。劉虞がみずから「傍流で」というのは、東海王が健在だからだ。

## ■ 2節 異民族を手なずける

劉虞伝にもどってきました。

虞初 舉孝廉，稍遷幽州刺史，民夷 感其德化，自鮮卑、烏桓、夫餘、穢貊之輩，皆隨時 朝貢，無敢 擾邊者，百姓 歌悅之。公事去官。

公務上の不祥事により、官を去った。『三国志』公孫瓚伝にひく『呉書』では、病気による退職だった。

中平初，黃巾作亂，攻破 冀州諸郡，拜虞 甘陵相，綏撫荒餘，以蔬儉率下。遷宗正。

蔬儉とは、質素儉約。宗正は、宗室のことを司る。

## ■ 3節 張純の乱

後 車騎將軍張温 討賊邊章等，發幽州 烏桓三千突騎，而牢臬逋懸，皆叛還本國。

俸給としての、糧食がとどこおる。「牢」とは、給金、「臬」とは、食糧らしい。

前中山相張純 私謂 前太山太守張舉曰…

張純は、身分の高い役人だったんだ！ 国相と太守レベルの叛乱です。スローガンは、以下。

「今烏桓既畔，皆願為亂，涼州賊起，朝廷 不能禁。又洛陽人妻生子兩頭，此漢祚衰盡，天下有 兩主之征也。子若與吾 共率烏桓之衆 以起兵，庶幾 可定大業。」

舉因然之。洛陽の2頭子＝天下に2人の主。おれとお前で烏丸を率いて、天下をとろう！

四年，純等 遂與烏桓大人 共連盟，攻薊下，燔燒城郭，虜略百姓，殺護烏桓校尉箕稠，右北平太守 劉政，遼東太守 陽終等，衆至十余萬，屯肥如。舉稱「天子」，

純稱「彌天將軍 安定王」，移書州郡，雲舉當代漢，告天子避位，敕公卿奉迎。

天子を称して、後漢から独立。187年。州郡に王朝の交代を告げた。袁術と、何が違うんだろ？

純又使 烏桓峭王等 衆騎五萬，入青、冀二州，攻破清河、平原，殺害吏民。

朝廷 虞威信素著。恩積北方，明年，複拜幽州牧。虞到薊，罷省屯兵，務廣恩信。

188年、劉虞は幽州牧。任命の理由は、張純を平定するため。つまり烏丸を帰順させるため。劉虞は武装解除。

遣使 告峭王等 以朝恩寬弘，開許善路。又設賞購舉，純。舉、純走出塞，餘皆降散。

純為其客王政 所殺，送首詣虞。靈帝遣使者 就拜太尉，封容丘侯。

『三国志』では、丘力居が出てくるが『後漢書』になし。靈帝から太尉をもらうのは、同じ。

#### ■ 4 節 幽州の善政

及董卓 秉政，遣使者 授虞大司馬，進封襄賁侯。初平元年，複征代表隗為太傅。

190年、袁隗のあとの太傅。『三国志』で袁隗が出ず「董卓は関東が騒がしいから遷都したくて」と記す。

道路隔塞，王命 竟不得達。舊幽部 應接荒外，資費甚廣，歲常割青、冀賦調二億有餘，

以給足之。時處處斷絕，委輸不至，而虞務存寬政，勸督農植，開上谷胡市之利，

通漁陽 塩鉄之饒，民悅年登，谷石三十。

幽州の防衛費が足りず、青州と冀州から、2億を割いていた。輸送が止まり、劉虞は幽州でまかかった。

青、徐士庶 避黃巾之難 歸虞者 百余萬口，皆收 視温恤，為安立生業，

流民皆忘 其遷徙。虞雖 為上公，天性節約，敝衣繩履，食無兼肉，

遠近豪俊 夙僭奢者，莫不改操 而歸心焉。

劉虞の治民が具体的。『三国志』公孫瓚伝のオマケでは、読めないことです。

青州や徐州の人が移り、故郷を捨てたことすら忘れた。上公Ⅱ三公の上Ⅱ大司馬。

#### ■ 5 節 皇帝に推される

初，詔令公孫瓚 討烏桓，受虞節度。瓚但務 會徒衆以自強大，而縱任部曲，

頗侵擾百姓，而虞 為政仁愛，念利民物，由是 與瓚漸不相平。

はじめ公孫瓚は、劉虞の指揮下だった。幽州は公孫瓚の「下克上」なんだなあ。つき191年。

二年、冀州刺史**韓馥**、勃海太守**袁紹**、及山東諸將議、以朝廷幼沖、逼于董卓、遠隔關塞、不知存否、以**袁宗**室長者、欲立為主。乃遣故樂浪太守**張岐**等齎議、上**袁**尊號。袁見**岐**等、厲はげまシテ色叱之曰…

「今天下崩亂、主上蒙塵。吾被重恩、未能清雪**國恥**。諸君各據州郡、宜共戮あわせ力、盡心王室、而反造逆謀、以相垢誤邪！」固拒之。

**馥**等又請**袁**領**尚書事**、承制封拜、復不聽。遂收斬使人。

劉虞は、皇帝や執政を要請した人を、斬ってしまった！『三国志』にない激烈さ。

於是選掾右北平**田疇**、從事鮮于銀蒙險間行、奉使長安。

田疇に、幽州から長安へ行かせた。田疇伝、読みたい。

獻帝既思東歸、見疇等大悅。時、虞子和為侍中、因此遣和潛從**武關**出、

告虞將兵來迎。道由**南陽**、後將軍**袁術**聞其狀、遂質和、使報虞遣兵俱西。

袁術は劉虞に、いっしょに西（長安か）を攻めようといった。袁術は長安を攻め、劉虞は長安を助けたい。

虞乃使數千騎就和奉迎天子、而術竟不遣之。

## ■第6節 部下の公孫瓚の暴走

初、公孫瓚知術詐、固止虞遣兵、虞不從。

公孫瓚は、袁術の何を知っていたんだろう。『後漢書』も『三国志』も、いろいろな読める。

瓚乃陰勸術執和、使奪其兵、自是與瓚仇怨益深。

公孫瓚は、はじめ袁術を妨害するため、劉虞に兵を出すと言った。轉換し、袁術に劉虞の兵を奪えと言った。

公孫瓚は「袁術は、こうなってほしい」というビジョンはない。公孫瓚は、劉虞の兵が、

長安で獻帝を助けることが気に入らない。劉虞を妨げるためなら、袁術に矛盾した依頼も出すようだ。

和尋得逃術還北、復為**袁紹**所留。瓚既累為紹所敗、而猶攻之不已。

虞患其默けがサンコトヲ武、且慮得志不可複制、固不許行、而稍節其稟假。

公孫瓚は、劉虞の部将である！気づかなかった。袁紹と対等に、張り合っていると思っていた。立場が違う。

公孫瓚は袁紹に敗れた。劉虞は、公孫瓚がみだりに武力を行使するのを恐れた。公孫瓚が志を得れば、

制御できなくなる。劉虞は兵糧を減らした、と。つまり劉虞は、公孫瓚を制御し、兵糧を与えている立場だ！

瓚怒，屢違節度，又復侵犯百姓。虞所賚賞典當，胡夷，瓚數抄奪之。

積不能禁，乃遣驛使奉章陳其暴掠之罪。瓚亦上虞稟糧不<sub>レ</sub>周<sub>あまね</sub>カラ。

**二奏交馳**，互相非毀，朝廷依違而已。

公孫瓚と劉虞のチクリ合い。

劉虞は、「公孫瓚は、私が胡族に与えたものを奪う」という。公孫瓚は、「劉虞からの支給が少ない」という。

公孫瓚は、親に反抗する子供のような。食わしてもらってるんだから、憤めばいいのに。笑

瓚乃築京於薊城以備虞。虞數請瓚，輒稱病不應。

京とは、たかい丘。劉虞は、公孫瓚を呼び出したが、公孫瓚は仮病。袁紹に討たれるときも、瓚は籠もったな。

虞乃密謀討之，以告東曹掾右北平魏攸。

攸曰…「今天下引<sub>のば</sub>シ<sub>レ</sub>領<sub>く</sub>びラ，以公為歸，謀臣爪牙，不可無也。

瓚文武才力足恃，雖有小惡，固宜容忍。」虞乃止。

魏攸はいう。「公孫瓚は生意気ですが、使えるコマです」と。劉虞は、公孫瓚を殺すのを、思いとどまった。

## ■第7節 公孫瓚と全面戦争へ

頃之攸卒，而積忿不已。

公孫瓚を弁護する人が、いなくなった。つぎ193年冬の記事。

四年冬，遂自率諸屯兵從合十萬人以攻瓚。將行，從事代郡程緒免胄而前曰…

「公孫瓚雖有過惡，而**罪名未正**。明公不先告曉，使得改行，而兵起蕭牆，**非國之利**。

加勝敗難保，不如駐兵，以武臨之，瓚必悔禍謝罪，所謂**不戰而服人者也**。」

劉虞はすぐ武力に訴え、公孫瓚を討とうとする。「不先告曉，使得改行」は、「まず説得して更正させずに」。

胡族に優しい劉虞は、腰砕けでない。剛直に信念のある人だ。だから劉虞は、公孫瓚を猛烈に許せない。

虞以緒臨事沮議，遂斬之，以徇<sub>とな</sub>ウ。

劉虞が「公孫瓚を斬るな」と言った人を、斬ってしまった。そんなキャラだっけ？

戒軍士曰…「無傷餘人，殺**一伯珪**而已。」

「公孫瓚を弁護して、怪我するな。1人の公孫瓚を殺せば、それで済むのだから」と。凄みある脅しだ。

時，州從事**公孫紀**者，瓚以同姓厚待遇之。紀知虞謀而**夜告瓚**。

瓚時部曲放散在外，倉卒<sub>そうそつ</sub>自懼不免，乃掘東城欲走。

公孫瓚が、目をかけた部下に救われる。のちの死に様からは、想像がつかない。

虞兵不習戰，又愛<sup>おシミ</sup>二人<sup>ニ</sup>廬舍<sup>ヲ</sup>，<sup>一</sup>敕不聽焚燒，急攻圍不下。

瓚乃簡募銳士數百人，因風縱火，直衝突之。

虞遂大敗，與官屬北奔居庸縣。瓚追攻之，三日城陷，遂執虞並妻、子還薊，

猶使領州文書。

公孫瓚は、劉虞の子に、行政をやらせた。よほど事務がキライだったんだ。

もしくは、献帝の使者の到着を待った。劉虞を、献帝の名のもとに斬るために。ってことは、公孫瓚は、献帝派。

袁術と、本質的な同盟が、成り立つわけがない。ただ袁紹を挟むという位置関係のみで、手を組んだだけ。

劉和の扱いについても、公孫瓚と袁術は、すれ違っていたし。袁術から見たら、公孫瓚は信頼できない。

## ■8節 天子なら、雨を降らせよ

會天子遣使者段訓增虞封邑，督六州事。

献帝の使者は、公孫瓚を、劉虞の後釜にした。下克上の成功だ。李傕の朝廷のしわざ。

拜瓚前將軍，封易侯，假節督幽、並、青、冀。

李傕は公孫瓚に、袁紹と戦ってほしかったのかな。袁紹は、董卓&李傕の敵だから。

馬日磾や趙岐のように、諸国を周っていたのかも。

瓚乃誣虞前與袁紹等欲稱尊號，脅訓斬虞於薊市。

公孫瓚は、李傕の朝廷の「命令によって」劉虞を殺したことにした。だから首級を献帝に送っている。

先坐而咒曰…「若虞應為天子者，天當風雨以相救。」時，旱勢炎盛，遂斬焉。

傳首京師，故吏尾敦干路劫虞首歸葬之。

瓚乃上訓為幽州刺史。虞以恩厚得衆，懷被北州，百姓流舊，莫不痛惜焉。

初，虞以儉素為操，冠敝<sup>やぶルルモ</sup>不改，乃就補<sup>つくロウ</sup>其穿<sup>ニ</sup>。

及遇害，瓚兵搜其内，而妻妾服羅紈，盛綺飾，時人以此疑之。和後從袁紹報瓚雲。

羅紈とは、うす絹と、しろ絹。夫人の趣味まで、劉虞は縛れなかったんだ。笑

劉和が袁紹につき、公孫瓚に復讐したというオチがたった。袁紹に捕らえられていて、よかったじゃん。